

国鉄千葉動力車労働組合

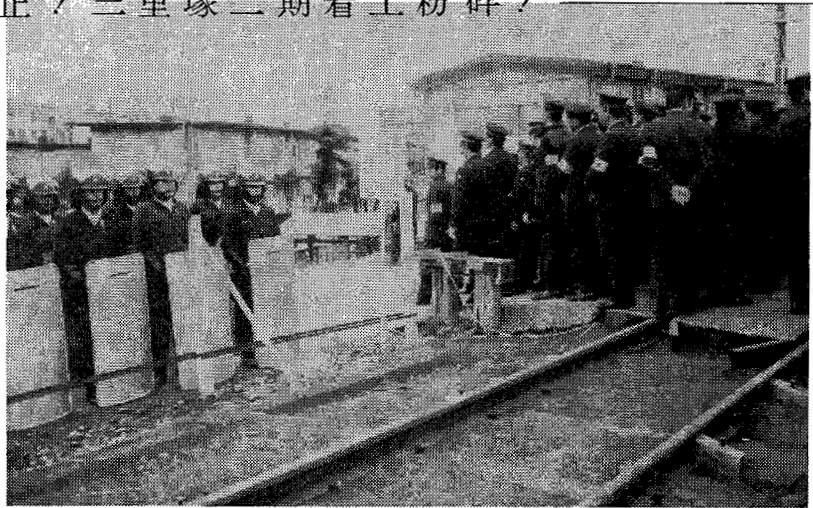
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄決戦ゼネストの端緒は拓糸

聞いばこみから

中曽根・杉浦打倒まで
聞いぬぐぞ

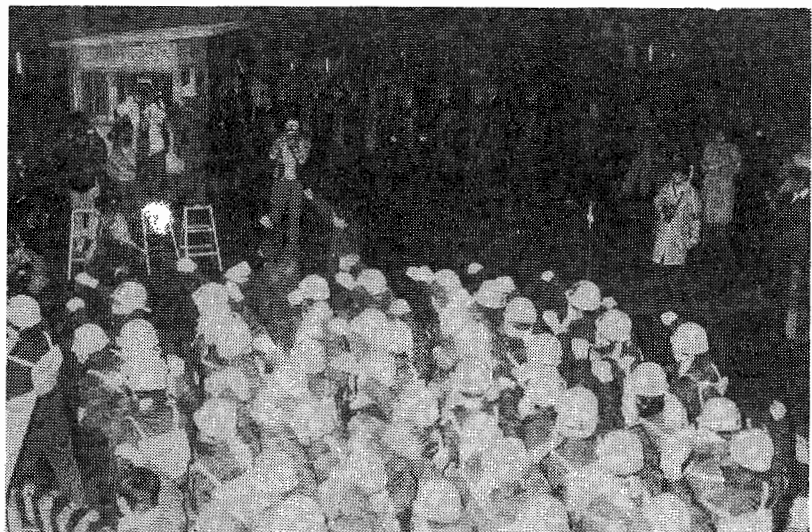
津田沼
拠点
報告②



1万名の機動隊・公安の重包囲をけて、怒りのストはくり上げ突入した。（津田沼電車区入口）

いよいよ分割・民営化を阻止し十万人首切りを粉碎するこの一年間の決戦の火ぶたは切っておとされたのだ。大ダメージを受けた当局は翌日のスト圧殺にむけて大量の「業務命令」を準備しはじめた。こうしたなかで二十八日夜も、夜半から翌朝三時まで国労津田沼分会では、組合員と役員で白熱した討論が何時間にもわたってたたかわされ、国労中央に対する怒りの弾効が続けられた。そして遂に、一分会の闘う仲間の力が国労中央をもつき動かし、国労中央の派遣執行委員も含めて「スト破りは拒否する」との方針が二十九日未明（午前三時ごろ）決定されたのである。

まさにこれは、動労千葉のスト決起が全国鉄労働者の共感と感動を呼びおこし、総屈服状況をうち破って壮大なゼネストへ発展する可能性を鮮明に指し示す偉大な、そして実に感動的な決起である。怒りは充滿しているのだ。全ての国鉄労働者が断固として闘う方針さえあたえられれば起いにたつのである。



青行隊は完全にスト拠点を防衛した。この戦闘力・献身・団結が必ず国鉄ゼネストを牽引するだろう。

阻止！三里塚二期着工粉碎！
九五〇〇の機動隊、九〇〇の公安・白腕が拠点を重ね包囲
夕方になって、幕張・新小岩支部より民衆援の仲間が到着。しかし機動隊・公安は、全く不当にもこれを電車区入口で阻止した。青行隊を中心に激しい怒りのシブプレヒコールがたたきつけられ、幕張・新小岩の仲間からも弾効の嵐がたたきつけられる。権力機動隊は、隙あらば構内に突入し、強制排除にかかろうとこまえるなかで、青行隊は、戦闘的デモを貫徹したのち、夜の籠城体制に入っていた。

中央のスト破り方針はまちがってる！徹夜の激論を
通して「スト破り拒否」を決定！
現場分会の労働者魂が勝った！

二十八日、動労千葉がストに入っても平常の運行を確保すると豪語した権力！当局一革マル連合の大弾圧体制はうち破られ、総武線はズタズタに引きさかされた。



24時間ストをうちぬく顔は晴れやかだ。（乗務員詰所）

「単独スト決起」に圧倒された
中曽根・杉浦の悲鳴

— 血迷った「惹起」論の談話 —

われわれは、翌二十九日、万全のスト体制を堅持しぬいて、正午までのストをうちぬき、勝利の第一歩をしるしたのである。スト集約集会に集まった支部組合員の顔は全員勝利感と単独決起した誇りに満ちあふれていた。中曽根は、その日のうちに、大反動キャンペーンをはりめぐらし、動労千葉の闘いを孤立させ、圧殺させようとしている。これこそ敵の受けたダメージの大きさを示すものでなく、なんであるるか。その証拠に中曽根にせよ、杉浦にせよ、「こんな大混乱をひき起こしたことは許せない。断固処置する」と顔をひきつらせて金切り声をあげて緊急談話を発表した。まさにしゅうすいぶりと敗北感はありである。彼らは

（裏面につづく）

動労千葉一〇〇名が大弾圧をけって、敵の庄殺網をうち破って堂々と二四時間ストを宣言どおりうちぬいてしまうこと、さらに意気軒昂と第二波、第三波へと前進していることに、どぎもをぬかれ、腰をぬかしてしまったのだ。だからわれわれの正義のストライキについて何の一言も批判できないのだ。動労千葉の正義のストライキ決起が多くの国鉄労働者、いな、全労働者・人民の心の底に大きな共感と共鳴をよびさまして、事実にはガツクリきているのだ。だからストとは直接関係ない、「ゲリラ」の責任をガナリたてることですりかえているのだ。

これはまさに、中曽根と杉浦の「敗北宣言」以外の何ものでもない。中曽根よ、杉浦よ、問題をはぐらかさないでわれわれの正義の二四時間ストという事実を真正面から見ることができるか、できないだろう。だから、ただただ「ゲリラを惹起した責任」なるこじつけで弾圧しようとしているのだ。

大激動にたたきこまれた

中曽根の「国鉄行革プラン」

これからが本番の猛追撃戦だ！

支配者どもよ、十万人の国鉄労働者の首切りが思いどおりにすんなり進むなどと思つたら大まちがいだ。この計画を大混乱させなければならぬ。どんなキャンペーンをはりめぐらそうが労働者の正義の闘いを孤立させ庄殺することなど絶対にできはしない。

この第一波闘争は、まだまだ闘いのはじまりである。津田沼支部は、報復処分の策動をはね返し、この団結力をさらにうち固め、この一年間の決戦に総決起する決意である。(了)

(津田沼支部通信員・発)